

令和元年度第2回山県市公共交通会議 議事録

日 時 令和2年1月21日（火）午前10時00分～

場 所 山県市役所 3階 大会議室

会長あいさつ

○会長：大河ドラマ「麒麟がくる」がスタートし、観光振興や山県市の知名度アップが期待されます。山県市には生誕及び没後の地があり、また土岐氏の居城であった大桑城もあり、歴史遺産としてPR中です。

3月末から4月には、山県ICが開通し、1年遅れてバスターミナルが整備されます。バスターミナルは、自主運行バスと路線バスの結節点となるため、子育て支援策としての通学利便性向上と福祉的な目的が両立するような利用ができると良いと思います。

市の公共交通の今後のあり方について、忌憚のない議論をお願いいたします。

報告事項1 前回からの経過報告

○事務局：（資料1の説明）

協議事項1 地域公共交通確保維持改善事業及び網形成計画推進事業評価について

○事務局：（資料2の説明）

○会長：この件について、承認してよろしいか？

○全委員：（異議なし）

協議事項2 山県市公共交通網の再編についてについて

○事務局：（資料3の説明）

○委員 A（自治会連合会）：アンケートでは、岐北厚生病院まで行けることを希望する意見もありますが、美山地域デマンド型交通を岐北厚生病院まで直通運行することはできませんか？

○事務局：現在は、バスターミナル止まりを前提としています。バスターミナルから岐北厚生病院までは、営業路線が運行し15分に1本程度バスが走っています。一定の本数が確保されている区間に新たな路線を入れ、競合することは制度上困

難です。

○委員 A（自治会連合会）：岐阜板取線と岐北線が運行しているため、デマンド型交通の利用者が増えないのではないかと思います。手厚いサービスが提供されているのに利用しないのはもったいないことです。実証実験の説明会に参加しましたが、参加者は少なく、またバスを利用しない人ばかりでした。利用者がいなければ、バスが減らされる・無くなるという危機感が地元で不足していると思います。自治会をうまく活用し、地元で公共交通を支えるという雰囲気づくりが必要です。

○委員 B（自治会連合会）：資料 2 でハーバス伊自良線も、大桑線と同様に、今後利用者数が減少する可能性があるかと記載されています。人口が少なく、高齢化が進む中だからこそ、移動手段の確保は続けていただきたいと思います。

ハーバス伊自良線とハーバス岐大病院線の路線重複による減便もよく検討して頂きたい。できれば減便せずに運行し、実際に利用が少ない場合は減便するという対応をお願いしたいと思います。

○事務局：運行経費や車両台数等の問題もあるため、1 箇所に過剰なサービスを供給することは避けたいと考えています。地元とも協議の上、方向性を決定していきます。

○会長：この件について、承認してよろしいか？

○全委員：（異議なし）

協議事項 3 市民アンケート調査について

○事務局：（資料 4 の説明）

○委員 C（タクシー会社）：I.（9）の設問について、選択肢にバイクが入っているのはどういった意図でしょうか。また、設問と選択肢が一致していないように感じます。

○事務局：バイクについては、自動車運転免許返納後も原動機付自転車で移動する可能性があるためです。

設問と選択肢については、再度検討いたします。

○副会長：バス以外の交通に対する設問は必要ないでしょうか？シェアリング、自動運転や福祉交通的な視点など、他に新たな取り組みについて聞いても良いと思

います。

○事務局：現在の調査票はバスに特化した内容のため、ご意見いただいた設問の追加を検討します。

○会長：この件について、承認してよろしいか？

○全委員：（異議なし）

○会長：協議事項全体を総括して、ご意見をお願いいたします。

○副会長：実証実験の結果が細かく分析されており、平成 30 年度と令和元年度の利用状況や改善点がよく分かりました。しかし、改善が需要喚起につながっているか、という点では疑問が残ります。

市の取り組みが、市民に伝わっていないことがわかる意見もありました。モビリティ・マネジメントを行えばよいという訳ではないため、どう対応していくか難しい問題です。

また、経費試算の整理は、市民のニーズだけではどうにもできない運行経費に係る資料です。

○委員 D（岐阜運輸支局）：複数回実験をされているため、その結果を活用しより良い計画を目指していただきたいと思います。

その他 今年度のスケジュールについて

○事務局：路線再編の方針決定のため、第 3 回公共交通会議を 3 月 27 日（金）10 時から予定しています。

以上